



N-E.X.T.
ハイスクール
変わる時代に、切り開く力を

第2回 富山県「高校教育改革実行計画」検討会
類型2,3改革における取組全体像・先進事例

9月30日

本講演の目的・ゴール

- ① 「普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化」および「地理的アクセス・多様な学びの確保」の各改革の全体像を把握する
- ② 各改革における全国の先進事例紹介を通じて、実行計画の検討に向けた改革イメージを共有する



Contents



本日の目的・ゴール

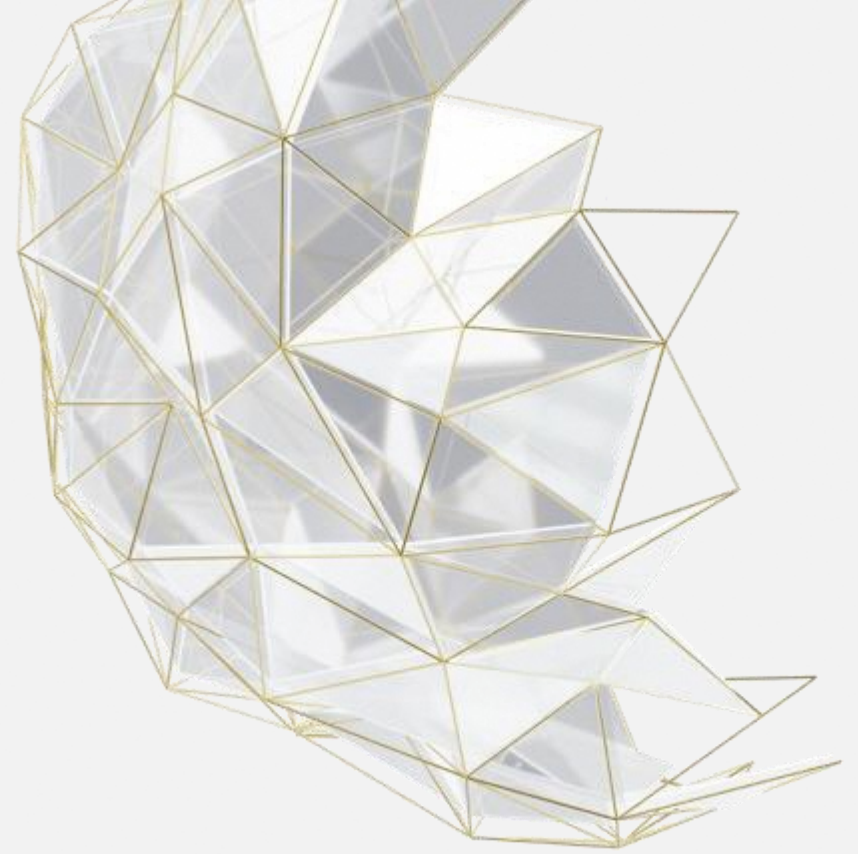


「普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化」の取組全体像・先進事例



「地理的アクセス・多様な学びの確保」の取組全体像・先進事例

「普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化」 の全体像・先進事例



N-E.X.T.
ハイスクール
変わる時代に、切り開く力を

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.



事業推進体制・持続的な運営体制		
・ 産官学の連携体制(コンソーシアム)の構築・運営	・ 教委・学校・産業界等の役割分担	・ コーディネーターの配置・育成
・ 教育委員会の機能・体制強化	・ 財源確保の在り方	

事例①：三田国際科学学園高等学校 | 探究的な学びの高度化

方向性

対象となる生徒	普通科高校に通う生徒（トップイノベーション人材）
解決したい課題・ニーズ	・サイエンスを理科だけの学びに閉じない ・探究を本格的な研究へ発展させる仕組み
学びの変容	高度で先端的な理数的学び
実現したい成果	科学的に問いを立て、長期的に研究を進め、社会・世界へ成果を発信できる生徒の育成

具体施策

推進施策	①カリキュラム/学科編成	【全教科の共通言語としての科学的アプローチの導入】 ➤ 全教科で「問いの言語化→仮説立案→調査・実験→分析・考察→意見構築→表現」の「科学的アプローチサイクル」を育てる学びを実践
	②指導体制	【博士号の常勤教員＋専門スタッフによる伴走体制】 ➤ 生徒一人ひとりがテーマを設定し、2年間の研究活動を実施 ➤ 博士号を持つ8名の常勤スタッフに加え、専門性を持つスタッフがおり、生徒の研究の伴走を実施
	③施設整備	【科学的アプローチ実践の舞台装置としてのラボ整備】 ➤ 3階建ての探究ラボ「Zero to One（ゼロワン）」を設立し、1階はものづくり・2階は議論・3階は思考と、「科学的アプローチ」の実践を促進する空間を整備

実行計画策定に向けた論点	探究的な学びの高度化に向け、カリキュラム・指導体制・設備をどう整えるか
--------------	-------------------------------------

出典：三田国際科学学園中学校・高等学校HP（[SCIENCE | 三田国際科学学園中学校・高等学校](#)）

事例②：新渡戸文化高等学校 | 社会につながる生きた学びの実践

方向性

対象となる生徒	普通科高校に通う生徒（文理融合型人材）
解決したい課題・ニーズ	やりたいことがない・見つからない、なりたい自分の姿が分からない
学びの変容	文理にとどまらない複数領域を横断した学び
実現したい成果	自ら学び続ける力の向上

具体施策

推進施策	①カリキュラム /学科編成	【教科横断のプロジェクト型探究学習】 ➤ 週1回1日、教科横断科目「クロスカリキュラム」を開講し、自身の興味×社会課題解決をテーマにしたプロジェクト探究学習を実施
		【修学旅行のアップデートによるフィールドワーク実践】 ➤ 従来の大人数で観光地へ行く修学旅行を、自らの意思で選んだ日本の地域でフィールドワークを実施する「スタディツアー」へアップデート（地域医療をテーマにした、地域の市民病院での医療実習等）
	②指導体制	【多様なバックグラウンドの教職員体制】 ➤ 民間企業など教員以外の職種経験者の割合が40%、学外の組織の肩書がある教員の割合が48%と、多様なバックグラウンドを持つ教員が在籍し、生徒の学びを支える

実行計画策定に向けた論点	普通科での学びを、どのように「社会につながる生きた学び」に転換するか
--------------	------------------------------------

出典：新渡戸文化学園HP（[新渡戸文化中学校・高等学校](#)）

事例③：昭和女子大学附属昭和高等学校 | 理数的素養の育成・理系キャリア支援

方向性

対象となる生徒	普通科高校に通う生徒（理数的素養を備えた人材）
解決したい課題・ニーズ	・女子の理数分野への進路選択の拡大 ・理数知識とデータ・プログラミングの接続
学びの変容	文理横断の学び/STEAM教育
実現したい成果	自己肯定感、自尊感情の向上を通じて、女子高校生の理工系キャリアの選択肢を広げる

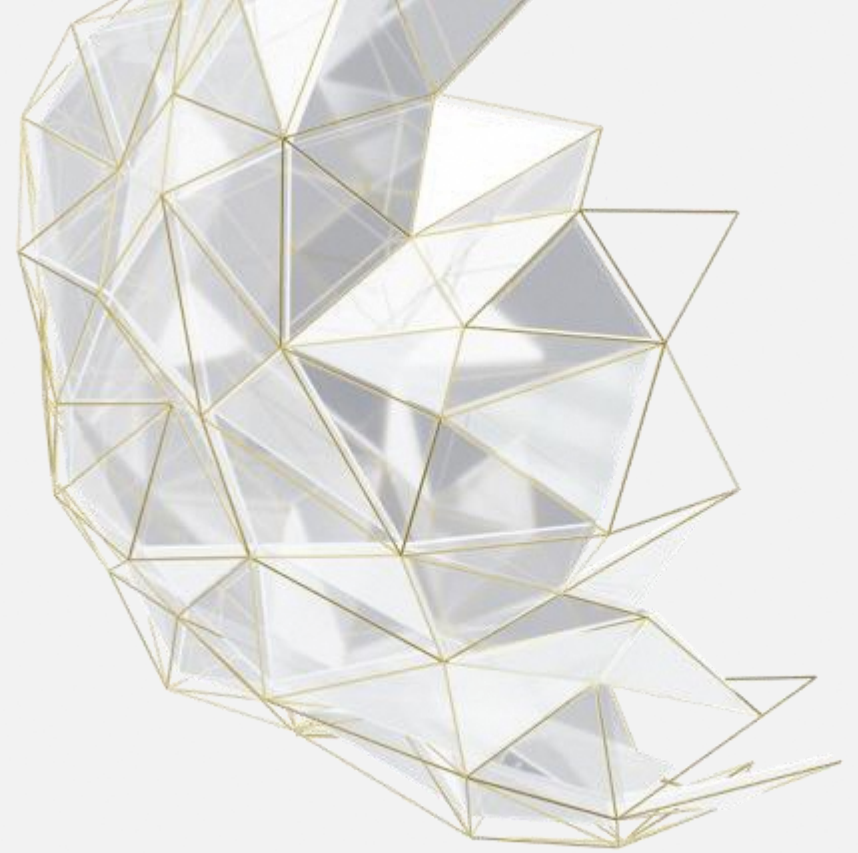
具体施策

推進施策	①カリキュラム/学科編成	【全校生徒対象の学校設定科目としてDS演習を開設】 ➤ 文系・理系を問わず全生徒が基本的データリテラシー・生成AI活用リテラシーを習得することを目指す ➤ 具体的には、情報科の高校2年生全員を対象に通年の「データサイエンス演習」を学校設定科目として開設 ➤ 民間企業と協働開発したオリジナルテキストを使用し、オープンデータを活用した社会課題解決に取り組む
	③施設整備/ ⑤社会の機運醸成	【ものづくり体験の提供に向けたラボ整備】 ➤ 同校では探究の最上位目標に「つくる」を設定。その具体の取組として、生徒中心の任意団体である、デジタルものづくりラボ「つくらぼ」の活動がある ➤ 3Dプリンター・レーザーカッター・3Dスキャナを導入 ➤ 学校説明会・文化祭で来校した小学生などを対象に、生徒自身がレーザーカッターWSを実施し、成果を発信

実行計画策定に向けた論点	文系・理系を問わない理数的素養の育成・理系キャリアへの関心喚起をどう図るか
--------------	---------------------------------------

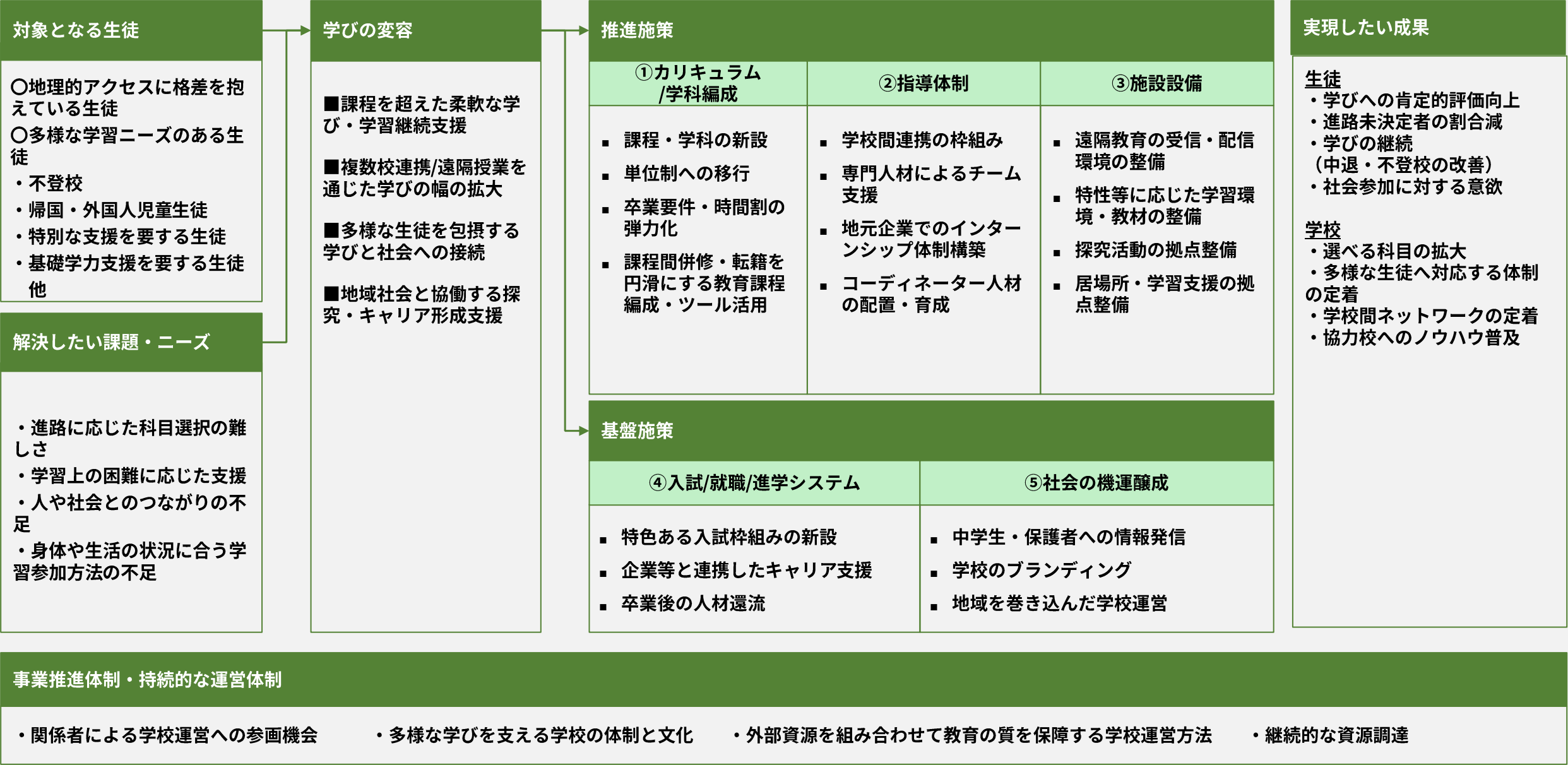
出典：三菱みらい育成財団HP,昭和女子大学附属昭和高等学校, [昭和女子大学附属昭和高等学校 | 一般財団法人 三菱みらい育成財団](#)

「地理的アクセス・多様な学びの確保」 の全体像・先進事例



N-E.X.T.
ハイスクール
変わる時代に、切り開く力を

© 2026. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.



事例①：東京都立新宿山吹高校 | 定時制・通信制改革

方向性

対象となる生徒	・ 不登校経験のある生徒 ・ 定時制・通信制高校の在籍者
解決したい課題・ニーズ	体調や生活事情により、決まった時間・頻度で登校しづらい
学びの変容	課程を超えた柔軟な学び・学習継続支援
実現したい成果	・ 学びへの肯定的評価向上 ・ 学びの継続（中退・不登校の改善）等

具体施策

推進施策	①カリキュラム/学科編成	【単位制×無学年制×昼夜間定時制による柔軟な学び】
		➤ 単位制のため、必修科目と選択科目を組み合わせて、一人ひとりが自分専用の時間割の作成が可能 ➤ 無学年制のため、何年目にどの授業を取るかは生徒の自由（留年がない）。最大6年間在学可能で、生徒のペースに合わせた履修が可能 ➤ 昼夜間定時制（1~4部）を取っており、自分の体調や生活に合わせて入試時に希望の部を選ぶことができる（所属外の部の授業も受講可能）
		【公立通信制高校の魅力化（自由選択コースの設置等）】
		➤ 生徒が各自自由に選択できる3つのコース（探究・DX・グローバル人材育成）を設置し、学校内や学校提携の専門学校、オンライン講座などで平日に無料で受講できる ➤ 基礎から大学受験まで網羅した学習アプリを無料提供し、生徒が自ら学びに向かう環境を整備

実行計画策定に向けた論点	定時制・通信制高校の柔軟な学びの実現・魅力化をどう図るか
--------------	------------------------------

事例②：大阪府立大阪わかば高校 | 外国人生徒支援

方向性

対象となる生徒	外国人生徒
解決したい課題・ニーズ	困難を周囲に理解されず、必要な支援につながない
学びの変容	多様な生徒を包摂する学びと社会への接続
実現したい成果	多様な生徒へ対応する体制定着

具体施策

推進施策	①カリキュラム/学科編成	【社会接続を見据えた学校設定教科の開設】 ➤ 学校設定教科「自己実現のための日本語」を開設し、日本の高校・社会で生きていくために必要な言語知識・文化知識等の習得を目指す（生徒の母語7言語でも開講）
	②指導体制	【外国人生徒支援のための校務分掌の設置】 ➤ 進路部内に教員6名から構成される校務分掌「多文化チーム」を設置し、上記学校設定科目の授業計画や進路指導等、外国人生徒の包括的な支援を実施
基盤施策	④入試/就職/進学システム	【入試における特別枠設定×枠適用校における環境整備】 ➤ 帰国・外国籍生徒を対象とした特別枠入試制度を設け、多言語による作文科目や試験時間の延長等、配慮事項を設定 ➤ 「枠」入試の適用対象である「枠校」では専用カリキュラムや進路指導等、外国人生徒・保護者の支援システムを整備

実行計画策定に向けた論点	高校教育における外国人生徒の支援をどのように拡充するか
--------------	-----------------------------

事例③：秋田県立能代高等学校 定時制課程 | 普通教育×特別支援教育

方向性

対象となる生徒	不登校傾向にある生徒や中学校の特別支援学級卒業生（発達障害傾向や車椅子を利用する生徒等）
解決したい課題・ニーズ	・ 心理的不安を取り除いて社会参加を目指す ・ 学習上の困難に応じた支援
学びの変容	多様な生徒を包摂する学びと社会への接続
実現したい成果	多様な生徒へ対応する体制定着

具体施策

推進施策	①カリキュラム /学科編成	【特別支援学校と連携した学校設定科目の新設】 ➤ 近隣の特別支援学校と連携し、フィールドワーク等の各種行事を合同実施し、特別支援学校での実技学習・実習の受講や当該校定時制授業の相互受講を可能とする
	②指導体制	【オーダーメイドの時間割による個別最適な学び】 ➤ 「特別支援学校」という名称への心理的抵抗の解消に向け、特別支援教育との垣根を超えた時間割を編成し、一人ひとりのスタイルに寄りそう学びを実現 【特別支援教育に係る専門知見の習得・共有】 ➤ 協力校（特別支援学校）との合同研修を定期開催し、普通高校の教育が特別支援教育の専門知見（アセスメントや個別指導計画作成等）を習得・マニュアル化して共有

実行計画策定に向けた論点	高校教育における特別支援教育をどのように拡充するか
--------------	---------------------------

Deloitte.
Digital

Create
Great